



ルノワールは『大いなる幻影』(37)を見てさても、『どん底』(36)を見てさても、私はパリを吸い込んでしまふ。クレールはパリにフランスの花を咲かせ、ルノワールはパリの心をしみこませてくれた。

ひところ彼はアメリカへ行った。幸いにも私は、アメリカでそのルノワールの『南部の人』(45)を見た。スタインベックの『怒りの葡萄』をフォードは冬の雪を思わせる冷たさと悲しさで、つまり漢字で描いたが、同じ頃のそのアメリカの貧農を、ルノワールはいわばびらがなで画面に移した。貧しい家の一間の中に若い夫婦とその夫の母が同居して、夜毎に二間に分けた毛布の穴から、老母は息子夫婦のセックスを覗く。暗い悲しい貧しさの中に、ルノワールは悲しい笑いをつけ加えた。

ルノワール映画は、空の虹。春の海。秋の通り雨。

淀川長治 Nagaharu Yodogawa



ルノワール映画を古くから愛していたロサンゼルスじゅうの花屋が、ルノワールに美しい映画を作ってくださいと、その製作費を差し出した。やさしいその花屋の心をくみとって、ルノワールは名作『河』(50)を完成した。誰が見てもわかる心優しい少女三名の早春物語。カラーでインドの祭りが展開し、少女の一人、インド娘がカタカリ・リズムのインド舞踊を踊る。夜の町には花合戦、色合戦。花を、色のこなを、ふりかけあう祭り。その音楽、その色彩に私はあきれ、見とれきった。このルノワールが久しぶりにフランスに戻って作ったのがあの『フレンチ・カンカン』(54)。パリのムーラン・ルージュ、このパリのムーラン・ルージュ名物のカンカン・ダンスを発明した男の物語。この唄、この衣裳、この日本なら明治時代の時代色。まさに名画。その美しさに目まいがした。その衣裳美術に目が画面にいついた。



しかし、この偉大なるルノワールが気軽に遊んだのが『ゲームの規則』(39)、『草の上の昼食』(59)。ルノワール映画は空の虹。春の海。秋の通り雨。エッフェル塔にかかった三日月。とにかく偉大なる印象派オーギュスト・ルノワールを父に持つジャン・ルノワール。幼くて美術の豪華なる洗礼を受けたのであろう。あのお笑いスケッチのごとき『素晴らしき放浪者』(32)の自由。『ピクニック』(36-46)の小川、柳の枝が水面にまで下がった夏の日のひとときの恋のアバンチュール。ルノワールの映画芸術を、私は思い出すたびに、ああ、見ておいたことを人生の幸せと思っている。



Le Grand Théâtre de Jean Renoir

1回目 平日15:00～ 土曜13:00～ 11月5日(火) ジャン・ルノワールの小劇場 6日(水) 女優ナナ 7日(木) 水の娘 8日(金) 荒地 9日(土) 騎馬試合	2回目 平日18:30～ 土曜16:00～ フレンチ・カンカン のらくら兵 チャールストン、マッチ売りの少女、ジャン・ルノワールの演技指導 可愛いリリー、カトリーヌ フレンチ・カンカン	1回目 平日15:00～ 土曜13:00～ 19日(火) ランジュ氏の犯罪 20日(水) フランスへの挨拶、ピクニック 21日(木) 十字路の夜 22日(金) ボヴェリー夫人 23日(土) 「ピクニック」のリハーサル、 「ピクニック」の撮影風景	2回目 平日18:30～ 土曜16:00～ ボヴェリー夫人 「ピクニック」のリハーサル、 「ピクニック」の撮影風景 ランジュ氏の犯罪 フランスへの挨拶、ピクニック 十字路の夜
12日(火) 可愛いリリー、カトリーヌ 13日(水) 騎馬試合 14日(木) フランスへの挨拶、ピクニック 15日(金) ゲームの規則 16日(土) ジャン・ルノワールの家族アルバム、恋多き女	荒地 可愛いリリー、カトリーヌ 獣人 黄金の馬車 ジャン・ルノワールの小劇場	26日(火) フレンチ・カンカン 27日(水) 黄金の馬車 28日(木) 獣人 29日(金) ゲームの規則 30日(土) 大いなる幻影	ジャン・ルノワールの家族アルバム、恋多き女 獣人 ゲームの規則 黄金の馬車 ラ・マルセイユーズ

1回目 平日15:00～ 土曜13:00～ 12月10日(火) スワンプ・ウォーター 11日(水) 草の上の昼食 12日(木) 大いなる幻影 13日(金) スワンプ・ウォーター 14日(土) 草の上の昼食	2回目 平日18:30～ 土曜16:00～ 南部の人 牝犬 ラ・マルセイユーズ 南部の人 大いなる幻影	1回目 平日15:00～ 土曜13:00～ 17日(火) ラ・マルセイユーズ 18日(水) 南部の人 19日(木) 小間使の日記 20日(金) この土地は私のもの 21日(土) トニ 24日(火) 浜辺の女 25日(水) 小間使の日記 26日(木) この土地は私のもの	2回目 平日18:30～ 土曜16:00～ スワンプ・ウォーター 草の上の昼食 トニ 浜辺の女 小間使の日記 この土地は私のもの トニ 浜辺の女
---	--	--	--

1回目 平日15:00～ 土曜13:00～ 1月7日(火) 素晴らしき放浪者 8日(水) どん底 9日(木) 捕えられた伍長 10日(金) 牝犬 11日(土) 人生はわれらのもの 14日(火) 河 15日(水) 素晴らしき放浪者 16日(木) ジャン・ルノワールの生涯 17日(金) どん底 18日(土) 坊やに下剤を	2回目 平日18:30～ 土曜16:00～ 人生はわれらのもの 河 ジャン・ルノワールの生涯 素晴らしき放浪者 どん底 ジャン・ルノワールの生涯 人生はわれらのもの 河 捕えられた伍長 ショタール商会	1回目 平日15:00～ 土曜13:00～ 21日(火) 現代の映画作家 ジャン・ルノワール 第1部 22日(水) ショタール商会 23日(木) コルドリエ博士の遺言 24日(金) 坊やに下剤を 25日(土) 現代の映画作家 ジャン・ルノワール 第1部 28日(火) 水の娘 29日(水) 女優ナナ 30日(木) チャールストン、マッチ売りの少女、 ジャン・ルノワールの演技指導 31日(金) のらくら兵 2月1日(土) 牝犬	2回目 平日18:30～ 土曜16:00～ コルドリエ博士の遺言 坊やに下剤を 現代の映画作家 ジャン・ルノワール 第1部 ショタール商会 コルドリエ博士の遺言 チャールストン、マッチ売りの少女、 ジャン・ルノワールの演技指導 のらくら兵 女優ナナ 捕えられた伍長
---	--	--	---

*1月15日(水)は祝日のため、1回目13:00～ 2回目16:00～の上映となります。

本企画は、シネマテーク・フランスを始めたとする各国フィルム・アーカイヴ及び各映画会社の協力を得ています。 Cinematheque française

関連企画

写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」UCLAジャン・ルノワール・コレクションより

1996年12月10日(火)～1997年2月1日(土) フィルムセンター7階展示室にて/入場無料

国際映画シンポジウム(東京・1996)「ジャン・ルノワール 芸術の魅力と秘密」

1996年12月7日(土)10:30～17:30 フィルムセンター 大ホール/入場無料

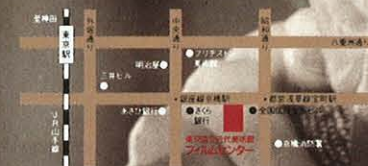
パネリスト 蓮實重彦(東京大学教授)、アラン・ルノワール(ジャン・ルノワールの子息)、ジャン・ドゥーシェ(映画評論家)、ギ・カヴァニャック(ジャン・ルノワールの元助手)、ジャンネット・バークストロム(UCLA準教授)など予定。

1996年11月5日(火)～1997年2月1日(土)
東京国立近代美術館フィルムセンター(京橋)

主催◎東京国立近代美術館フィルムセンター、国際交流基金、朝日新聞社
後援◎フランス外務省、フランス大使館、映画生誕百年祭実行委員会 協力◎日本航空

料金・前売り1回券/一般1,600円、大・高生1,300円、中・小生1,000円
5回券/一般7,000円、大・高生5,000円、中・小生4,000円
10回券/一般12,000円、大・高生9,000円、中・小生7,000円
当日券(1回券のみ)/一般1,800円、大・高生1,500円、中・小生1,200円

前売り券は都内プレイガイド、大学生協、チケットぴあ(03-5237-9999)、チケット・セゾン(03-3250-9999)にて10月1日より発売開始。
●発売は上映の1時間前に行い、定員に達し次第締め切ります。
●前売り券(5回券、10回券を含む)に日時指定はありません。各回、当日券と同じ列に並んでいただきます。
満員の場合は入場できませんのであらかじめご了承ください。
●ホールは上映30分前に開場します。
●開映後の入場はできません。
お問い合わせ:
朝日新聞社東京企画部(03-5540-7450)
国際交流基金視聴覚課(03-5562-3535)



●フィルムセンター 東京都中央区京橋3-7-6
NTTハローダイヤル:03-3272-8600

写真は「獣人」(1938) ジャン・ルノワールとシモーヌ・シモン

初期のサイレント作品から、名作『どん底』、『大いなる幻影』、『ゲームの規則』、『フレンチ・カンカン』まで、巨匠ジャン・ルノワールの全作品を本邦初上映!
ジャン・ギャバン、イングリッド・バーグマン、フランソワーズ・アルヌール、ミシェル・シモン、アンナ・マニャーニなど往年の名優たちの響宴

ジャン・ルノワール、 Le Grand Théâtre de Jean Renoir 映画のすべて。



「水の娘」*La Fille de l'Eau*
(1924年、70分、白黒、サイレント)
記念すべきデビュー作。動く船の上で飲事をする少女とえられた最初のシーンに、ルノワールのすべてが込められている。少女を演じるのは、妻カトリヌ・ヘスリング。今回のために新たに焼いた、ニュープリントによる上映。



「女優ナナ」*Nana*
(1926年、145分、白黒、サイレント)
シュトロハイムの「愚なる妻」を見たルノワールが、リアリズムをめざして作った作品である。ゾラの小説が原作だが、ほとんどドイツで撮影された。ナナの愛人ミューバ伯爵を演じるのは「ナリカ博士」で主役のヴェルナー・クラウス。



「チャールストン」*Charleston*
(1926年、21分、白黒、サイレント)
氷河に襲われて崩壊したヨーロッパ。人工衛星に乗った黒人の学者が白い「野蠻人」から、チャールストン・ダンスの手ほどきを受ける。カトリヌ・ヘスリングが眼を振って、情熱的な踊りを見せる。



「マッチ売りの少女」*La Petite Marchande d'Allumettes*
(1927年、29分、白黒、サウンド版)
アンデルセンの童話を、幻想的な手法で描いた作品。雪の降る新年の夜、マッチを売る少女はいじめられ、マッチを擦っているうちに眠り込む。夢の中で馬に乗って空を駆けるシーンがすばらしい。ニュープリントによる上映。



「のらくら兵」*Tire-au-Flanc*
(1928年、130分、白黒、サイレント)
ルノワールが初めて挑んだ歴史劇。男性を主人公にした作品。選ばれたのは、ミシェル・シモン。彼は、突飛な行動を繰り返す兵隊を見事に演じ、ルノワールの最も愉快な作品となった。ルノワールが敬愛したチャプリンの影響も濃厚。



「騎馬試合」*Le Tournoi*
(1928年、120分、白黒、サイレント)
ルノワールが初めて挑んだ歴史劇。16世紀、宗教戦争の時代を舞台に決闘が繰り広げられる。南仏カルカソンスに壮大なセットを組み立て、教団のエキストラを使ってコスチューム・ブレイが繰り広げられる異色作。



「荒地」*Le Bled*
(1929年、85分、白黒、サイレント)
田舎領アルジェリアを舞台に、植民地主義の国策映画として作られたものの作品。青年が愛する女を救うために馬で追いかけるラスト・シーンは、西部劇そのものである。シネマテック・フランセーズが買収したプリントを今回に限り上映。



「坊やに下剋を」*On Purge Bébé*
(1931年、62分、白黒)
ルノワールのトーキー第1作で、やんちゃな子供を中心に繰り広げられる家庭ドラマだが、水先トイの音など、音の実験が随所に見られる。ミシェル・シモンとフェルナンデルの二人の対戦の演技も見ものである。



「牝犬」*La Chienne*
(1931年、100分、白黒)
この作品から、ルノワールの第1期黄金時代が始まる。ジゴロ役のジョルジュ・フラモンと、その情婦ジャン・マレーズに日曜画家のミシェル・シモンがかわる愛憎劇。あまりのリアルさに俳優たちが映画と同じ恋愛関係になったという。



「十字路の夜」*La Nuit du Carrefour*
(1932年、74分、白黒)
シムノンの小説を原作にした、謎のダイヤモン殺人事件を追うメグレ警部の探偵劇。複雑なプロットのうに同時録音でセリフも聞き取りにくい。ゴダールはこの映画をフランスで唯一のフィルム・ノワールだと述べている。



「素晴らしい放浪者」*Boudou Sauvé des Eaux*
(1932年、83分、白黒)
ルノワールのおおらかで自由な思想を体現する名優、ミシェル・シモンが繰り広げる喜劇。セーヌ河に身投げした浮浪者ブーデューは、助けられたうえ、小間使いの娘と結婚させられる。原題は「水から救われたブーデュー」。



「ショタール商会」*Chotard et Cie*
(1932年、83分、白黒)
食料品店を経営するショタール父子をめぐる愛すべき喜劇であり、その父親をマルセル・パニョルの映画の名優フェルナン・シヤルパンが演じている。店の中を縦横無尽にめぐるカメラワークも見事。フランスでもほとんど上映されないものの作品。



「ボヴァリー夫人」*Madame Bovary*
(1933年、105分、白黒)
モーパッサンの小説を原作に、パリ郊外の川辺で一家が過ごす午後を描いた、詩情あふれる作品。特に主人公の娘を演じるシル・ミヨのオリジナル音楽も興味深い。今は失われた当初の3時間版はさらにすばらしいという。



「トニ」*Toni*
(1934年、96分、白黒)
南仏の労働者の暗黒たる物語を、多くの素人を起用し、セットを使わずに実景で撮影したこの作品は、イタリアのネオ・リアリズムの先駆と言われている。マルセル・パニョルが製作を助けたほか、27歳のルキノ・ヴィスコンティが見習いとして参加。



「ランジュ氏の犯罪」*Le Crime de Monsieur Lange*
(1935年、86分、白黒)
詩人のジャック・プレヴェールが脚本に参加したこの作品は、労働者の解放をめざす左翼的内容だったが、結果として「演劇的、技術的奇跡の密度が最も高く、純粋の真実と美が最も多く詰め込まれた映画」(トリュフォー)となった。



「人生はわれらのもの」*La vie est à nous*
(1936年、66分、白黒)
ゴークキーの戯曲をもとに、亡命ロシア人たちの依頼により製作。ルノワールはジャン・ギヤパンとルイ・ジュエヴェという対角映写。それぞれ立場労働者、農民、青年教師が生活に困っているのを同志助けるという物語。2部は主にジャック・ベッケルが出演。



「ピクニック」*Partie de Campagne*
(1936-46年、40分、白黒)
モーパッサンの小説を原作に、パリ郊外の川辺で一家が過ごす午後を描いた、詩情あふれる作品。特に主人公の娘を演じるシル・ミヨのオリジナル音楽も興味深い。今は失われた当初の3時間版はさらにすばらしいという。



「大いなる幻影」*La Grande Illusion*
(1937年、115分、白黒)
世界的に最も人気の高いルノワール作品。ジャン・ギヤパン、シュトロハイムに加えて、ピエール・フレネー、マルセル・ダリウ、ガストン・モドラの名優たちがつづる兵隊たちの美しい物語。戦後日本で封切れ、一世を風靡。



「ゲームの規則」*La Règle du Jeu*
(1939年、112分、白黒)
錯綜した恋愛関係を軸に、ルノワールが演出の真骨頂にして映画百年の金字塔として知られる傑作。マルセル・ダリオ、ノラ・グレンゴール、ミラ・パレリらの絶妙な演技に加えて、ルノワール本人が演じるオクターヴ役も忘れがたい。



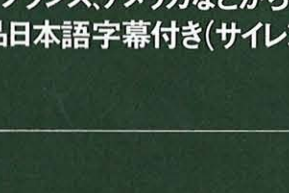
「どん底」*Les Bas-Fonds*
(1936年、90分、白黒)
ゴークキーの戯曲をもとに、亡命ロシア人たちの依頼により製作。ルノワールはジャン・ギヤパンとルイ・ジュエヴェという対角映写。それぞれ立場労働者、農民、青年教師が生活に困っているのを同志助けるという物語。2部は主にジャック・ベッケルが出演。



「この土地は私のもの」*This Land is Mine*
(1943年、108分、白黒)
アメリカ時代のルノワールが、ナチ占領下のフランスのレジスタンス運動を、名優チャールズ・ロートンを主人公にハリウッドで撮った作品。戦後フランスで公開されて酷評されたが、奥行き深いシャープな映像は、凡俗的なナチ映画と大きく異なる。



「南部の人」*The Southerner*
(1945年、100分、カラー)
南部の過酷な自然の中で、綿花を育てて生きていく一家(サカリ・スコットとベティ・フィールドが夫婦を演じる)を、ドキュメンタリーのような生々しさで描いた、ルノワールのアメリカ時代の傑作。ヴェニス映画祭で最優秀作品賞を受賞。



「小間使の日記」*The Diary of a Chambermaid*
(1946年、82分、白黒)
ミルボアの同名小説を、ポーレット・ゴダードを主人公に、ハリウッドのスタジオで撮った作品。批評家バザンによれば、この作品をきっかけに、ルノワールはかつてのリアリズム志向から、純粋に娯楽性に向かうという。



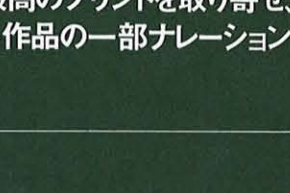
「黄金の馬車」*Le Carrosse d'Or*
(1952年、100分、カラー)
アン・マニャーニを主人公に、イタリアで撮った作品。ヨーロッパからベルに流れてきた芝居一座をめぐる、奇想天外かつ自由奔放な傑作恋愛譚。「どこまでが芝居でどこまでが人生？」とマニャーニは問いかける。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



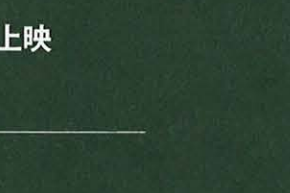
「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



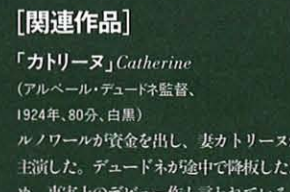
「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



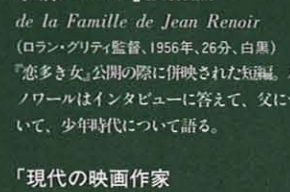
「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



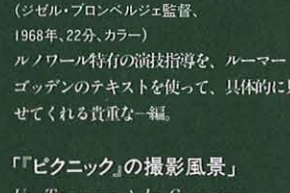
「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



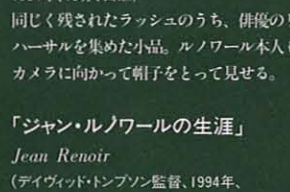
「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。



「草の上の昼食」*Le Déjeuner sur l'Herbe*
(1959年、92分、カラー)
人工受精の実験に成功した生物学者(ポール・ムーリス)が、水浴びする少女(カトリヌ・ルヴェール)に恋し、自然の愛に目覚める。ルノワールが父親ゆかりの地、南仏のラ・コレットに戻り、久しぶりにロケで撮った作品。